

皇后さま「良いご本」

「わし姫物語」新訳に

ち掛けた。ロンドンの古書店で一九二二年発行の英語の初版本原書が見つかり、一カ月で訳を終えた。

新訳本は、えんじ色のカバーが「窓」のようにくりぬかれ、花畑にたたずむキルディーンとワシが見える。全体を透明のシートで覆った丁寧な装丁だ。

新訳は「わしといたずらキルディーン」(春風社、千八百九十円)。旧訳はフロイト心理学を紹介した故大槻憲二氏で、新訳はその孫でエッセイストの長井那智子さん。

金沢さんは「大槻さんの訳は旧仮名遣いで学者らしい正確さが特徴だが、長井さんの訳は軟らかく心に響いてくる。多くの子どもにも読んであげてほしい」と話している。



幼稚園に贈呈される新訳本①と旧訳本の表紙コピー

わがままに育った姫が守りのワシにしつけられ礼儀や感謝の気持ちをほぐくんでゆく、ルーマニアのマリー女王の名作童話「わし姫物語」。皇后さまも「良いご本」と異例のお言葉を述べていた絶版書が、六十年以上を経て新訳で出版された。物語に共感したパナソニック教育財団などが今週から、全国の国公立幼稚園に五千百冊の寄贈を始め

名作童話 60年ぶり